



新年を迎えるにあたり、デイサービスセンター「悠悠」では昨年末にかけて、毎年恒例の「手作り年賀状製作」を実施しました。今年は丑年という事もあり、赤ベコの貼り絵をしてもらいました。職員が数週間前から準備に取りかかり、赤ベコの顔や体等の各パーツを型紙から切り取り、それを利用の方に貼つてもらいました。又、新年の挨拶を書いたり、カラフルなスタンプを使用しながら飾り付けをし、オリジナルの年賀状を作成しました。細かい作業に苦戦しながらも、日頃お世話になつてゐる家族や、友人の方に心を込めて…。結果、見事に仕上がり、とても満足していた様子です。今回作成された年賀状は、年が変わる元旦には皆様の御手元に届いた事でしょう。

「今年も皆様にとって良い一年となりますように…。」 高谷

**柔らかしシビはいかが?**

昨日の十二月三日、料理教室(介護予防事業)を行いました。ゆうゆう荘の八戸栄養士指導のもと、子供からお年寄り迄食べられるよう、「柔らかめの食事」に挑戦。高齢者の方も多く参加して下さいました。皆さん手際よく、一つ一つ栄養士に確認しながらも、あつという間に出来上がり試食タイムへ…。中でも、しそ風味の豆腐ハンバーグはとても柔らかく、味もしつかり付いていて好評でした。「普段、冷蔵庫にあるような材料でできるのがいいね」との御意見も。家でも作つてもうると嬉しいですね。

## メニュー

○電話(代)  
〇一七二一六二一九二〇○電話(代)  
〇一七二一六九一五二二五○感謝録  
・東消防署北分署  
・水木保育園  
・浪岡野沢小学校

※「とうえい」掲載の個人に関する情報は、  
ご本人の許可を得て使用させて頂いております。

順不同・敬称略

工藤一

高谷

田中一

伊藤一

高橋一

山本一

佐々木一

鈴木一

西田一

中村一

大庭一

伊藤一

デイサービスセンターみずきでは、開設当初より利用者の方へのクリスマスプレゼントを職員が手作りし、差し上げておりました。

昨年より十二支の置物を作つており、今年は職員と利用者の方が一緒に作る「合作」に挑戦してみました。グルーピワークの時間を利用し、風船に細かくちぎった新聞紙を貼り付ける事から始めました。



デイサービスセンターみずきでは、利用者の方へクリスマスプレゼントを贈りました。職員と利用者が一緒に作る「合作」で、新聞紙を細かくちぎって、それを風船に貼り付けていました。

## 少女クラブの活動

### 浪岡野沢小学校の慰問

昨年の十二月十八日、ゆうゆう庄ホールにて、浪岡野沢小学校の慰問があり、利用者の方と児童のみなとの交流会が行われました。

一年生の迫力ある「よさこい」が行われ、続いて二年生による楽器演奏や、紙に書かれた絵を動かす「ペープサート」という劇を披露してくれました。そして最後は利用者の方とのふれあいタイム！児童のみなさんが肩たたきをする等、和やかな雰囲気で過ごされました。

「めんこいなあ～」と話す利用者の方の顔は恵比須顔で、楽しい時間を過ごされた様子です。

原田

## 認知症ケアについて

### いつも元気にいますからね……



認知症介護で難しいのは、これが正しいといふものがないという点で、一人一人の対応が違ってくるということです。

認知症になると、新しい記憶、事柄を覚えることが出来ず忘れてしまいます。その為、昔の事を昨日の事のように話したり、行動したりする事がよくあります。例えば、施設利用者の方で、昔社員寮の寮母をやっていた方がおり、現在もエプロンをして寮で働いていると思っている方がいます。その方は、時々思い出したかのように「お母さんと約束している。家に帰らなければ…。」と玄関まで行き「タクシーが来るから待っているの…。」と、椅子にかけ待っているときがあります。又、別な利用者の方は「私何時頃に帰るの？迎えはここに来るの？今日はここに泊まつてもいいの？」と、不安な表情で何度も何度も職員に尋ねてくる方もあります。



そんな時「やめて下さい」「違いますよ」と、行動を制限てしまえばかえって利用者の方に混乱と不安を与えてしまいます。そんな時は、まず利用者の気持ちを一番に考え、なぜそのような行動をするのかを考えてみる事が必要です。私達介護スタッフは利用者の気持ちが落ち着くまで、静かに見守り対応しております。又、利用者の方が安心してもらえるような声掛けの仕方も工夫したりしています。

認知症の方は、常に不安な気持ちで日々生活されている事が多くの、私達の介護の関わり方によって心理面に大きな影響を及ぼす事を頭に入れ、どのような対応をしなければならないのかを考えて行かなければなりません。

相手の思いに根気よく耳を傾け、認知症の方の思いを感じとれるケアができるよう、今後も努めて行きたいと考えております。 我満



最初は戸惑った様子も見られましたが、職員の作り方を何度も見ながら作業していくうちに、微笑ましい雰囲気へと変わり、楽しみながらで忘れられません。その時の笑顔を思ふと「合作」で良かった…と、職員同満足しております。

今では、その「合作」の一品を玄関先に飾り、時折眺めては、楽しく過ごした時間を思い出し、笑っています。駒井



特養ときわでは、西ユニット・シヨートステイ利用者の方が、今年の干支である『丑』をモチーフにした鳳作りに挑戦しました。骨組みの部分は職員が準備しましたが、他の貼り付けから仕上げ迄のほとんどの部分は、利用者の方がゆっくりと製作を進めて行きました。「ここはどうしたらいいの？」「あっ！失敗した！」等、それぞれの作品に対する熱い思いや、こだわりが感じられました。

完成した鳳を手に掲げ、記念撮影！フレーム越しから見える一人一人の表情には、作品を作り上げた《達成感》が感じられました。今年は鳳が勇壮に舞い上がるよう、力強い一年になつてほしいという期待が込められていました。 進藤



グループホームいこいでは、余暇活動の時間に書道を行っております。初めは「もう何年も筆を握っていないからなあ：」と、遠慮している様子でしたので「それでは自分の名前を書いてみましょう」と、お願いをしたところ、「名前だつたら…」と、筆を執って頂きました。やはり、昔

から書いてみましょう」と、お願いをしました。 紙書きを披露！特に題名は設げず、自分の言葉を自分で表現して頂けるように思っています。 古川



空高く  
飛ぶ  
上がれ！

ナレテ  
書こうかな？